

令和3年度 地域活性化活動奨励事業活動概要 「万倉っ子の栽培体験学習」

宇部市立万倉小学校

はじめに

本校は、宇部市北部に位置する児童数30名、複式学級3クラス、特別支援学級1クラスの小規模校である。地域には、「赤間硯」、「岩戸神楽舞」といった芸術文化だけでなく、「万倉なす」といった特産物もあり、それら地域にある「人・もの・こと・自然」との出会いの中で、ふるさと万倉のすばらしさを知る学習に取り組んでいる。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら学校と地域が連携し、地域での体験活動や地域の方々との様々な活動を展開した。特に、花や野菜の栽培・販売等において、地域活性化活動奨励事業による道具の充実は大変効果があった。ここでその一端を紹介し、地域活性化活動奨励事業の報告とする。

○夏野菜の栽培と販売（1・2年）

5月7日（金）地域の方2名に教わりながら、なす、キュウリ、ピーマン、トマト、枝豆の5種類の苗を植え、世話をした。子ども達は、草抜きや水やりをしながら、野菜をスケッチしその成長に喜びを感じていた。「嬉しいことにトマトが赤くなったんですよ。」と笑顔で報告していた。

宇部市北部総合支所中山間地域・保健福祉支援チームの取り次ぎで、万倉地区にある「楠こもれびの郷」で、「1・2年やおや」を開店し、販売体験をした。看板やポスターを作り、校内で職員を相手に販売リハーサルをして本番に備えた。7月8日（木）、「1・2年やおや」がオープンし、子ども達の「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」の声が広がりました。「楠こもれびの郷」でも、テーブルやクロス、幟旗、立て看板、レジスター、袋などを用意していただいた。全面的なサポートを受け、30分で完売した。

また、収穫したキュウリは、学校給食のサラダにも使われた。さらに、この活動が地域学校協働活動として宇部市教育委員会コミスクホームページのホットニュースに掲載された。



○サツマイモ栽培と焼き芋大会（1・2年）

毎年サツマイモを育て収穫後、近くの宮尾八幡宮で地域の方に火をおこしていただき焼き芋大会をしている。今年は、6月8日（火）に、校地内の別の場所に畑を開墾してサツマイモの苗を植えた。子ども達は、スコップを使って畝を作り、マルチシートを敷いた。



10月27日（水）に、一輪車2台分の大きなサツマイモを収穫し、重さを計ったところ昨年の約2倍の26.9kgだった。

12月14日（火）、地域・保護者の方も参加した焼き芋大会で、ほくほくの美味しい焼き芋を「熱い。やわらかい。美味しい。」と言いながら食べていた。

○春花壇プロデュースと花壇ボランティア（6年）

主体的な活動にするために、6年児童が花壇のデザインと花の配置を考えた。6月11日（金）には、隣接する若者センターの腐葉土を入れ、地域のボランティアの方と縦割り班で土づくりをした。



23日（水）には、サルビア、マリーゴールド等を高さや色合いを考えて配置し、間隔をとって丁寧に苗を植えていった。5・6年生は、花壇プロデュースに従ってリーダーシップを発揮し、下級生に指示を出していた。花壇ボランティアは、地域コーディネーターの方を通して集めていただき、児童と交流しながら一緒に活動していただいた。コロナ禍のため地域行事が中止になる中、外での活動で交流に取り組んだ。夏の間は、職員と地域ボランティアによる水やりと草抜きを続けた。

9月7日（火）には、縦割り班ごとの花壇コンクールを実施した。それにより、自主的に草を抜いたり、花柄摘みをしたりする児童も増え、花壇の世話への意欲関心の維持につながった。コンクールでは、高学年の子どもたち同士が相互に良さを認め合い、「色合いがよいで賞」「グッドデザインで賞」「カラフルで賞」「ド迫力で賞」といった命名となった。



○稲刈り・脱穀体験と万倉地区子ども委員会（3～6年）

10月14日（木）、田植えこそできなかったが、3年生以上で稲刈り体験、21日（木）には、5・6年が脱穀体験をした。経験を積んだ高学年は要領も良くてきぱきと活動していた。地域の子ども委員会の方10名が参加され、子ども達に稲刈りや脱穀のコツを教えていただいた。ライスセンターで、生モミが乾燥や選別されて白米になる様子を見学し、コンバイン等の機械にも乗せてもらうことができ、農業に関心を寄せていた。



○冬野菜の栽培と第2回販売（1・2年）

9月15日（水）、1・2年生が、9月には冬野菜の大根、カブ、人参、ブロッコリー、を植えた。2週間後には、間引きをし嬉しそうに家に持ち帰った。

10月25日（月）には、ホウレンソウ、青梗菜、春菊の種をまいた。収穫の時期がずれたので、2回に分けて収穫と販売を行った。

11月26日（金）に、カブと大根を、12月7日（火）には、ホウレンソウ、青梗菜、人参、春菊、ブロッコリーを販売した。朝一番に野菜を収穫し、冷たい水で洗ってきれいにすることに一生懸命取り組んだ。「種から一生懸命育てた野菜です。」「ホウレンソウがまだ残っているので買ってください。」と呼びかけの言葉も工夫していった。「楠こもれびの郷」での販売経験を重ね、お客さんへの声かけやレジ打ち、お金の扱い、品物渡しなどが上達し、コミュニケーション力が向上していた。

また、収穫した大根とカブ、サツマイモは給食の「マーボー大根・カブの味噌汁・サツマイモのミルクかりんとう」になって登場した。「自分達で育てた野菜はおいしいです。」と言って普段野菜に苦戦している児童も美味しく食べる事ができた。



○秋花壇プロデュースと花壇ボランティア（5年）

11月19日（金）、6年生からのバトンを受けて5年生児童が花壇のデザインと花の配置を考えた。今回は、春に咲く花なのでテーマを「卒業と入学のお祝い」とした。花壇全体を総合的にコーディネートすることにし、勿忘草を波型に植える「わすれないうでロード」や鉢に植えたキンセンカで花文字「万」を考えた。ビオラやノースポールも虹をイメージした配置にした。子ども達の発想の豊かさに驚くとともに、想いを形にすることを大人が支援することにした。今回のボランティアには新しい方も来られ、交流がさらに広がった。また、稲刈り・脱穀で出たもみ殻を土に混ぜ込むことで花壇の土の改良ができた。



○玉ねぎ栽培（3・4年）

12月9日（木）、新しい畑を開墾し、4畝の玉ねぎ畑とした。万倉小学校の近くの宮尾地区は、米、人参、玉ねぎが作られ、学校給食にも提供されている。地域学校協働活動推進員の方から、その宮尾地区産玉ねぎの苗をいただき、3・4年生が教わりながら、マルチシートを敷き穴を開け苗を1本ずつ丁寧に植えていった。全部で約400本の苗を協力して植えた。収穫は来年度の6月になるが、子ども達は「みんなに食べてもらいたい。」と、とても楽しみにしている。



成果と課題

・ 成 果

コロナ禍のため、予定されていた田植え体験はできなかったが、実施した活動に対して児童は主体的に取り組むことができた。花壇づくりでは新たに児童に計画を任せたり、校内花壇コンクールを企画したりと、児童の主体性が生まれる仕掛けを設定した結果である。また、楽しさだけでなく大変さや苦勞の先にある充実感や達成感を味わわせたいため、草抜きや土の耕運、施肥、支柱立て、水やり、収穫といった一連の栽培活動を体験させた。さらに、地域の特産物販売所「楠こもれびの郷」での販売を目的にすることで、児童は意欲を維持しながら活動に取り組んでいた。さらに、学校地域協働活動の推進にもつながることができた。

このように、栽培体験活動を通して児童と地域が必然性をもって積極的につながることで、子どもたちに豊かな教育活動を提供できたことは言うまでもない。また、地域の方にとっても、児童との協働活動は元気の源となり、地域の活性化につながっている。

本年度の学校評価アンケートでは、児童用設問「地域に出かけたり、地域の人といっしょに学習することは楽しい」の肯定的回答が100%だった。保護者用・学校運営協議会委員用設問「学校は、体験的な学習や地域の特色を生かした教育活動を積極的に行っている」の肯定的回答が、保護者・学校運営協議会委員とも100%だった。教職員用設問「地域と連携して、地域の特色を生かした教育活動や学校づくりの取組を行っている」の肯定的回答も100%だった。

栽培体験活動の取組が、万倉地域の豊かな自然や人とのふれあいを育み、アンケートの高い評価につながったと考える。

・ 課 題

課題としては、継続した活動にするための子どものモチベーションの向上、職員によるサポート、地域支援の継続・組織化が挙げられる。活動のゴールを常にブラッシュアップさせながら子どもとともにステップアップすること、担当や担任1人ではなく他の職員のサポートを受け学校全体で組織的に関わるのが重要である。そのためにも、教育課程に位置付ける学校地域連携カリキュラムのマネジメントが必要となるであろう。そして、地域と共有し、地域とともにブラッシュアップしていくことができれば、今後地域主体で協働する活動は、一過性ではなく持続可能な活動となっていくだろう。

おわりに

本校の地域連携活動は、学校目標「地域を愛し、人を大切にする子どもの育成」を進める上で欠かすことができない取組である。今年度も山口県教育会の「地域活性化活動奨励事業」の支援により、この取組を充実させることができた。本事業より厚いご支援とご指導をいただいたことに対し、深く感謝申し上げたい。今後も、教職員・保護者・地域とともに、よりよきパートナーとなって実践を積み重ねていきたい。